KITA NO MACHI NO NEWS LETTER

# キタのまちのニュースレター

No.14 2024 秋-冬号

「みんなで歌ってみませんか♪」と、城千広先生。
（ピアノ担当の樽井容子さんと）

今年はベートーヴェン作曲の交響曲第9番が1824(文政7) 年、オーストリアのウィーンで初めて演奏されてから200年目。さらに、その100年後1924（大正13）年1月26日、九州帝国大学フィルハーモニー会（現、九大フィル）により、第4楽章が日本人で初めて演奏されたという記念すべき年回りなんだそうです。

そんな第九を、合唱活動が盛んな旭区区民センター・大ホールで「たまたま聴いた時の感動は忘れることができません。」そして今年、旭・北・鶴見・都島・城東が「5区で祝おう第九200年！」と銘打ち、来る12月8日（日）には、同じ旭区民センター・大ホールで発表会が開催される運びになっています。（主催：5区第九実行委員会/後援：大阪市コミュニティ協会）

この〝5区〟企画の中で、北区の講習担当をしてくださったのが城千広先生でした。私自身、北区民センター・大淀コミュニティセンターの両館の館長として、この講習の様子（全5回）をつぶさに拝見することになり、新しい感動、さらに私なりの夢が巻き起こりました。

それは……城先生と一緒に、「北区での音楽活動発展に貢献できたらなぁ～」ということでした。そして、城先生の「合唱教室」の構想を抱き始めています。

「夢を実現したい！」そんな願いを胸に、城先生にインタビューさせていただきました。

## あなたも「第九」にトライしてみませんか！

**――城先生が音楽に携わるきっかけは何ですか？**

２歳からピアノを習い親も先生もピアノ科に進むものと思っていたようです。ところが、私自身ピアノは嫌で、中学の頃から歌の先生に習い始め、声楽科に進みました。大学卒業後すぐに結婚、子育て。ところが、偶然にも、子育て中に同級生と自転車ですれ違ったことがきっかけで音楽の世界へ戻ってきました。本当に良かったと思っています。

**――生徒さんに向けて伝えたい事は何ですか？**

はじめて歌うのは大変だと思います。でも、１年で終わりではなく２年目は１年目でできなかったこと、３年目では２年目でできなかったことをと、毎年パワーアップして歌っていく歓びは、とてもとても魅力です。大きな声を出し、みんなで歌うと心も体もパワーがみなぎります。気持ちが沈んでいても、そんなことぶっ飛ばせます。歌を歌っていつまでも若々しく笑顔でいましょう！

**――第九の魅力や、ここに注目して聞いて欲しいこと。また、これから皆さんに伝えていきたいことはありますか？**

「5区で祝おう第九200年！」は画期的な試みです。初心者もベテランも、みんなが楽しみにしています。今年12月8日（日）旭区民センターには、是非聴きに来てください。そして来年は、是非とも参加者としてステージで一緒に歌いましょう。「ステージで歌う！」本当に気持ちいいですよ♪

【注】城先生の「合唱教室」は構想中です。詳細内容は改めてお知らせします。

大淀＆北区民センター便り

## フォトジェニックな大淀コミセン

大淀コミュニティセンターのモニュメント〝大淀〟は、説明書きにもありますが、一目見て「淀川の雄大な流れをイメージした」と感じるアート作品です。今年、この作品はちょうど 40 歳。それよりも先に完成の 40 余年を経た建物も、派手さを控えたデザインに優れ、正面外観と〝大淀〟の配置バランス、さらに建物内の動線にも様々な工夫が見られます。

大淀区が北区となったのは昭和 64/ 平成元（1989）年。ずいぶん年月が流れましたから、大淀という名「そのものが歴史」になりました。ですから、大淀コミセンと〝大淀〟の風景は、北区の貴重な歴史物語なんだろうと感じています。

でも、築古物件には管理に工夫が必要です。大淀コミセンの場合、例えば建物回りの植栽が豊かである分、ひと手間・ふた手間考えなくてはなりません。しかも、今年は格別の高温多湿。草木がビックリするくらい伸び盛りました。

年に何回も剪定管理する余裕はありません……写真はそのビフォー・アフターです。どうですか？〝大淀〟をバックに「記念写真！」そんなこともお似合いのフォトジェニックな大淀コミュニティセンターです。

スタッフ一同、古きよきものに息吹を吹きあて、運営・管理に努めています。ぜひ一度、大淀コミュニティセンターをご利用ください。お待ちいたしております。

見慣れた風景〝まち歩き〟

## 魅力的な地下街の記憶

「行ってないのに・行ってきた！」1951（昭和26）年から60年間も親しまれたアリバイ横丁（阪神百貨店「ふるさと名産」）の記憶が鮮明にある。間口2間ほど、奥行き50センチあるかないか。物心ついた頃、大阪駅・梅田ターミナルエリアは、すでに「大動脈の地下通路」だった。最盛期の70年万博の時代には、41都道府県もの〝ふるさとの逸品〟が手に入ったらしい。スゴイ！

この姿、大阪を代表する地下街の〝壮観〟だったし、「お店のおばちゃん」も、ふるさとの風情みなぎり「何か？」を、確かに、感じさせてくれた。

出典：〝アリバイ横丁〟～これぞ大阪の名所！

「人を惹きつける人の力」を、「まちづくりに」と、昨今「何か」と人肌感が求められる時代になっている。そんな時、心の奥底に、この魅力的な地下街の記憶がフッと湧き上がることがある。ネット・ビジネスとは真逆、時代遅れなのかもしれないが、あの人肌感は、そこはかとなく未来的であったような気がするし、時代に打ち勝つ「何か」も秘められていたような気がする。

時代は移ろい、長い工事期間を経て、見違える立派さでこの地下通路が拡幅され、安心・安全のキレイな通りになったのは、つい最近のことだ。

2024年9月撮影：上の写真と同じ地下通路

歴史や文化・まちづくり的試み・地域探訪……など など……「まち歩き感覚」のコラムのページです

# キタ歩き日本旅

## 岩手県の巻

**全国約半数の道府県事務所が北区「大阪駅前ビル」に！ 旅の玄関口みたい！！ それが〝キタ歩き日本旅〟です。**

※1　出展：復興釜石新聞アーカイブ。オリジナル・キャプションは「小雨模様の中、釜石港に到着したガントリークレーン＝17日」となっています。

全国各地の県事務所に出会える大阪駅前ビル、今回は岩手県です。さっそく同事務所・次長の武藤健一さんに取材趣旨を告げると開口一番、「東日本大震災で受けた大阪への恩義」について語られました。その「語り」は熱く、少々驚いたのですが、それは「大阪愛」のようでもあり、とてもうれしい響きがありました。

教えていただいた、その「響き」の詳報を 2017 年 8 月 29 日付け (※1) 復興釜石新聞アーカイブ（紙ベースのリアル版 は同年 8 月 23 日発行 第 615 号）で確かめてみました。（以下、紙面の一部を転載）

———復興支援のため、大阪府から本県へ無償譲渡された大型荷役機械ガントリークレーンが 17 日、釜石港に到着した。県内の港では初の導入。現在、同港にあるクレーンの３倍の荷役能力があり、貨物取扱量の飛躍的な増大に期待がかかる。岸壁への設置工事や夜間用照明施設の整備、試運転などを経て、来月下旬の稼働開始を目指す。（この間・省略）新品価格は約 10 億円。堺泉北港には、阪神淡路大震災で被災したのを受けて１９９６年度に３基設置されたが、現在運用していない１基が本県に贈られた。（以下省略）

武藤さんによれば、「このクレーンは釜石だけではなく、岩手県全体の復興にも大活躍しています」とのことだった。

そんな話をお聞きして、大阪人としてうれしくないはずがありません。ところが、岩手県から着任され、間もないらしい武藤さんから、こんな質問がありました。

武藤さん：大阪駅北側が大規模に整備され、大きな話題になっています。元の中央郵便局も立派なビルになり、話題性豊かな地下店舗街も人気です。……仕事柄とても興味があるので勉強させてもらっていますが……じつは、ドーチカ（堂島地下街）に岩手県と青森県のアンテナショップがあり、これらの話題に押され、人目につかなくなるのではないかと、とても心配しています。

どのように返答すべきか困りました。が、武藤さんの大阪愛は深く、ついつい問わず語りでこんなヤリトリになりました。

———大阪の地下街は〝名所名物的な存在感〟が際立ちます。東京や福岡の「それ」とは、ここが違います。つまり、地下通路に人格を持たせることに成功したのです。ドーチカは、通りの先の中之島方面。堂島・堂島浜（いづれも二丁目）でも地上のアップデートが盛んで、これらに結ばれた〝ドーチカ通り〟を、各県文化の「お店」で「通り化」すれば、とても未来的な観光スポットになるのかも？

武藤さん：各県文化の「お店」で〝ドーチカ通り〟ともなれば、古来、日本全国の物流で栄えた中之島や堂島の歴史や文化、ひいては大阪そのものの「ものがたり」ですね。

———これぞ岩手県という物語的な名品は何でしょう？それはアンテナショップで手にすることは可能ですか？

武藤さん：例えば、岩手県を代表する有名な工芸品があります。日を改め、アンテナショップでその手触り感を確かめてみませんか！

……ということで、後日アンテナショップに同行してもらうことになりました。それは、江戸期・中之島の蔵屋敷で名品に出会う「(※2) そのもの」のような感覚で、今に続く岩手県と北区の物語のようでもありました。

※2　武藤さんの手に名品「南部鉄器」が。茶器として畿内・上方とのつながりも深い。

北東北三県大阪合同事務所　☎06-6341-7900 ／ 岩手県大阪事務所　直通☎06-6341-3258
北区梅田1-3-1-900 大阪駅前第１ビル９階　（開館 平日９時～ 17時／土日祝・年末年始は休み）

# 浪花百景歳時記

## もしも大阪に東照宮があったら……

### 第五十五景　「川崎御宮」　歌川国員画

大阪人の愛する偉人といえば太閤さんこと豊臣秀吉である。川崎の東照宮も明治六年に廃社となり、明治十三年に中之島に豊国神社の別社が創立された。万城目学の小説『プリンセス・トヨトミ』の舞台、中央区空堀商店は秀吉の馬印である千成瓢箪を飾っている。しかし夏の陣の後、街を再建して天下の台所の礎を築いたのは松平忠明であり徳川氏であった。それを偲ばせるのがこの図である。

道行ナビゲーター　大阪大学名誉教授　**橋爪節也**

大阪大学総合学術博物館
研究支援推進員
**波瀬山祥子**

徳川家康を祀る東照宮といえば、日光東照宮（栃木県）や久能山東照宮（静岡県）、金地院東照宮（京都市）が有名ですが、大阪市北区にも東照宮が存在しました。今回ご紹介する「川崎御宮」こと川崎東照宮です。本社は、江戸時代から明治時代初期まで、西成郡川崎村＝現在の造幣局と大阪市立滝川小学校の地にありました。

時は元和元年（一六一五）、大坂夏の陣の後、家康の外孫で大坂城主となった松平忠明が、家康の一周忌を祈念して創健したものです。東照宮が立つ以前、ここには豊臣秀吉の弟であり茶人の織田有楽斎の邸宅がありました。有楽斎三井といわれる「花の井」「菊の井」「梅の井」の名水が湧き、家康はこの茶席に出掛けるのを好んだと伝わります。湧水は、東照宮にも引き継がれ築山・林泉を整え、観音堂・薬師堂を配した美しい景勝地となりました。また、京都建仁寺塔頭の九昌院より僧三江紹益が迎えられ境内には別当寺九昌院が建立され後に建国寺と改称されました。

平日は厳重に門戸を閉ざしていましたが、例年四月十七日に開催される「権現祭り」の際は衆人参詣を許し、大坂市中は献灯を点じ「浪花随一の紋日」として賑わいを見せました。天保八年（一八三七）大塩平八郎の乱で焼失するも復興され、本図は、その復興後の風光明媚な様子を伝えています。手前に立つのはタンチョウヅルとクロヅルです。現在、寺社にいくと鶴の銅像を目にしますが、実物の鶴を飼う寺社も多かったそうです。背後には川が流れ、橋を渡った対岸には創建時に忠明が献納した石灯籠が置かれています。屈曲する岩間にはツツジの花が咲いています。画家国員は四月の祭礼に訪れ、春の朗らかな景色を描いたのでしょう。

しかし、復興もつかの間、慶応四年（一八六八）戊辰戦争が勃発すると、境内には長州藩の本営が置かれ戦乱に巻き込まれます。明治に改元されると、敷地は造幣寮（現・造幣局）になり、明治六年廃社となりました。現在、石灯籠と鳳輦庫は大阪天満宮境内に移され保管されています。また、下三番村（現・北区中津付近）にあった東光院（別称・萩の寺）に、東照宮本地堂が引き取られ、「あごなし地蔵堂」として現存しています。東光院は、大正二年（一九一三）豊中市に移転し、権現まつりは「萩まつり道了祭」として承継されています。

今夏公開された映画「もしも徳川家康が総理大臣になったら」は、AI技術で歴史上の偉人を復活させ最強内閣を作るという奇想天外なストーリーですが、もしも大阪に川崎東照宮が残っていたなら、現在どんな景色になっていたでしょう。十一月四日に開催する浪花百景タペストリー展の「現場紀行」では船に乗りこの付近を周遊する予定です。徳川家の縁を感じながら大阪の秋を探索しましょう。

## 編集後記

ステージの上で歌ったり舞ったり。そんな経験は皆無に等しい"私"ですが、今回取り上げた「合唱」も、北区民センターと大淀コミュニティセンターで開催されている「フラ教室」でも、ステージ上で「発表する！」取り組みが、分け隔てなく華やかに繰り広げられます。その様子は会館運営に携わる者にも歓びを与えてくれます。感謝！

〔お詫び〕前号に誤記がありました。お詫びして訂正いたします。
誤記箇所、P1右上「×⇒No.12」。正しくは『No.13』でした。

■編集・発行：北区民センター・大淀コミュニティセンター・都市コミュニティ研究室
■指定管理者：一般財団法人大阪市コミュニティ協会
■発　行　月：7月・10月・1月・4月の各月下旬発行

北区民センター　〒530-8401 大阪市北区扇町2-1-27
✉ kitakumin-center@abelia.ocn.ne.jp
大淀コミュニティセンター　〒531-0074 大阪市北区本庄東3-8-2
✉ oyodo-comini@abelia.ocn.ne.jp